

<株式会社エフエム東京 第344回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成19年11月6日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）

◇出席委員（6名）

子安美知子	委員長	青池慎一	副委員長
内木文英	委員	横森美奈子	委員
内館牧子	委員	香山リカ	委員

◇欠席委員（1名）

渡辺貞夫 委員

◇社側出席者（10名）

後藤 代表取締役会長
富木田 代表取締役社長
岡田 専務取締役
稲田 常務取締役
小谷 常務取締役
園城 常勤監査役
黒坂 執行役員編成制作局長
吉田 編成制作局編成部長
森田 編成制作局番組制作部長

<オブザーバー>

延江 編成制作局次長

◇社側欠席者（0名）

【事務担当 黒坂放送番組審議会事務局長】

4. 議題

- (1) 最近の活動について
- (2) 番組試聴：「バイブル」

2007年10月18日（木）16：00～16：25放送分

<試聴時間：約20分>

＜議事内容＞

議題1：最近の活動について

◎ 「SCHOOL OF LOCK!」が第3回日本放送文化大賞のグランプリを受賞

社団法人日本民間放送連盟が制定、2005年より毎年実施されている「日本放送文化大賞」のグランプリ、準グランプリ作品の発表が10月31日、第55回民間放送全国大会席上で行なわれ、TOKYO FMの「SCHOOL OF LOCK!」が、ラジオ部門のグランプリを受賞いたしました。

今回受賞したのは、昨年8月に放送され、同年9月5日の番組審議会でもお聴き頂いた、「SCHOOL OF LOCK!」で親子問題を取り上げた週の1日。家庭内暴力を受けている少女と電話で語り合った回です。

「日本放送文化大賞」は、民間放送連盟の会員各社において質の高い番組がより多く制作・放送されることを促す目的で、視聴者・聴取者の期待に応えとともに、放送文化の向上に寄与したと評価される番組を顕彰する目的で制定されました。同賞でのTOKYO FMの受賞は、第1回でラジオ部門・準グランプリを獲得した「ザ・ライン～僕たちの境界線」に続く受賞となりました。特に今回の作品は、賞狙いの特別番組ということではなく、レギュラー番組での受賞に、大きな意義があると考えております。

また、日本民間放送連盟賞ではCM部門においても、ラジオ第2種(21秒以上の部)で最優秀賞を受賞、番組・CM共に最優秀賞を受賞することが出来ました。

■日本民間放送連盟賞 CM部門(2007年10月31日)

◎ラジオ第2種 最優秀賞…味の素・企業「NO MORE 朝食抜き」編 120秒
(広告会社：株式会社アサツー ディ・ケイ)

◎広告主の企業ブランディングを担う新たな番組の動きについて

インターネット広告隆盛の時代ではありませんが、逆にネットでは伝えきれない、生活者の心の琴線に触れ、共感呼び起こす企業メッセージを、TOKYO FMの番組を通じて新たな企業広告発信に取り組むクライアントが増えています。

● 「TRAVANCE～The Baccarat Experience」

2月には“Baccarat”提供の「TRAVANCE～The Baccarat Experience」(土 20:30～20:55)をスタート。日仏の文化を担う、各界の第一線で活躍する著名人にフローラン・ダバディがインタビュー。番組中にはBaccaratのCMをあえて入れず、番組内容全体で企業メッセージを深く伝える手法を取っています。



● 「Panasonic Melodious Library」

7月には“Panasonic”提供の「Panasonic Melodious Library」(日 10:00～10:30)をスタート、芥川賞作家小川洋子氏をパーソナリティに迎え、文学の名作を毎回一作品選定し、高い評価を得ています。提供社の松下電器産業では、全国の地方紙 47 紙で番組宣伝広告連動の企業広告を展開し、さらに、毎回取り上げる作品を題材にした一回限りの、この番組のためだけのオリジナル CM を展開しています。今後は、スポンサーと共同で番組の書籍化を PHP と一緒に計画するなど、FM 番組を中心とした、こうしたトータル表現に企業メッセージを託していこうという考え方を採用しています

● 「CHAUMET Romantic Journey」

9月には世界的宝飾品ブランド“CHAUMET”提供の「CHAUMET Romantic Journey」(土 21:30～21:55)をスタート、雅楽奏者の東儀秀樹が各界で活躍中の女性たちと「美しく生きる」ことへのこだわりをテーマに対談し、女性が美しく生きるために貢献するというブランド・メッセージを発信しています。

● 「TOSHIBA presents GIFT FROM THE WORLD」

10月改編の新企画として、100年以上にわたり人間と自然の共生を伝えて

いる米ナショナルジオグラフィック誌と提携し、当社の展開するヒューマン & アースコンシャスキャンペーンと調和を図り、環境問題を中心に、地球の自然に関する様々なレポートとともに、TOSHIBA の環境活動を伝える企業 CM を連動させた企画をスタートしました。



● 「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」

10月改編のもう一つの新企画として、世界に誇るアニメプロダクション、スタジオジブリの鈴木敏夫プロデューサーを起用した「鈴木敏夫のジブリ汗まみれ」(日 23:00-23:30)は、ジブリの生み出す、世界を動かすアニメ文化をプロデュースする醍醐味や苦労など、外からは窺えない真実や、発想のヒント、人の心をとらえる仕事とは何なのかをわかりやすく表現する企画としてスタート。ウォルトディズニーホームエンターテインメント、読売新聞、日本航空といったスポンサーがジブリのクリエイティビティに各社のメッセージをオーバーラップさせる形でのCM展開を実施しています。

市場が成熟化し、製品差別化が困難になっている中で、企業ポリシーを踏まえた企業イメージの訴求が一層重要視されてきている今こそ、TOKYO FMでは、40年にわたり海外旅行への誘いを表現してきた「JET STREAM」をはじめとする、FM放送の原点を今に置き換え、企業メッセージを番組と密接に連動させて、人々の心に感動と共感を生み出すコンテンツを開発し、ラジオならではの企業ブランディングの提案を今後さらに強化して行きます。

◎TOKYO FM のクロスメディア展開について

当社は、ラジオを軸としながらもさまざまなメディアを複合的に使ってターゲットとコミュニケーションするクロスメディア展開を強化してまいりました。

例えば、「SCHOOL OF LOCK!」では、ターゲットである10代に対して、24時間稼働のインターネット掲示板(BBS)により、番組を通じて届けるメッセージに対する反響を取り上げ、逆に書き込みから番組を企画するという双方向のコミュニケーションをベースにしています。その上で、レギュラー講師であるアーティストや女性タレントたちが「部活動」と称してそれぞれの活動を立ち上げ、リスナーによるラジオドラマやリスナーモデルの撮影会などを展開、また携帯サイトを活用した番組連動のメールマガジンや着うた・着ボイスなどの配信、番組が応援する新進アーティストのインターネットラジオ番組の配信、先日行った“YOUNG FLAG”のような「学園祭」と称した番組発のライブイベント、番組の軌跡をまとめた書籍の出版、オリジナルグッズの販売、スポンサーと連動した商品開発、TVドラマ化等々、10代の興味関心事を網羅した多彩な展開例は枚挙に暇がありません。そして、それらは全て『未来のカギを握る学校』というコンセプトに貫かれ、ターゲットと真正面から向き合い、あらゆるメディアを有機的に活用して深くリアルに繋がっていこうという想いから成り立っています。そこでパーソナリティとリスナーが“信頼”をやり取りする中から、10代が抱えている不安や悩み、問題もリアルに浮かび上がってきます。それに応えながら、共に笑い、怒り、涙し、楽しむコミュニティが形成され、総アクセスが月間5千万PVを超えるまでに成長して来ています。当社が目指す、従来の“メディアミックス”ではない“クロスメディア”展開を具現化した一つの形がここにあります。

この他にも番組発の、また、オリジナルのクロスメディアコンテンツを開発してまいりましたので、今回あらためてその現況と今後の計画をまとめてご紹介させていただきます。

◇当社のPC・携帯サイトは番組ホームページを中心とした多彩なコンテンツで月間1億PVを超え、ラジオ局中最多アクセスとなっています。

◇「あ、安部礼司」(日 17:00-17:55)は、36歳の平均的サラリーマン安部礼司がトレンドの荒波に揉まれながらも成長していく姿を描いたコメディドラマで、ホームページでは安部礼司のブログやメールマガジンを配信している他、コミック化して男性誌で連載するなどクロスメディア展開を行ってきました。本番組はターゲットである30代を中心に高い支持を得ており、日本最大のSNS「mixi」では9,000人を超える参加者が集まるコミュニティが自発的に形成されているほどです。この従来の展開に加えて、10/10に出版した脚本集は8,000部が予約完売したほか、番組の選曲テーマである30代に刺さる楽曲を集めたCDをショートドラマ入りで発売。また、10/12に番組の携帯サイトを開設、番組のあらすじや登場人物の紹介、そして安部礼司が書くブログを無料公開しています。今後は、安部礼司とその他の登場人物のメールのやり取りの配信や、“安部礼司が撮った写真”の待ち受け画像配信等のサービスを有料会員向けに実施を予定するなど更に展開を拡大していきます。

◇「Tapestry」(平日 8:30~11:00)の会員制番組連動コミュニティサイト(SNS)には、20~30代女性を中心に約1万人が会員登録。番組が投げかけたテーマについて意見を交換しているほか、音楽、英会話、子育て、料理等々、放送以外の部分でもコミュニティを開設し、会員同士が活発に意見交換を行っています。また、ドリカム、スピッツなど人気アーティストが、放送を離れて参加するなど、新たなメディアとして音楽業界からも注目されています。

◇携帯サイト「MUSIC VILLAGE」は17万人の会員登録のうち6万人は月額315円の有料会員で、以下の、当社ならではのコンテンツを配信中。

<アーティスト・メールマガジン(有料会員サービス)>

アーティスト本人が執筆したメールが直接携帯電話に届くサービス。番組レギュラー出演者をはじめ、いま旬の25アーティストのメルマガを配信中。リップスライム、平原綾香から海外アーティストまで、これほどのビッグネームのメルマガが数多く揃ったサイトは他にはなく、ファンとの新たなコミュニケーションの形を確立しています。

<ケータイ小説(有料会員サービス)>

会員の中心層10~20代の世代(女性が60%)に人気の漫画家や小説家による携帯小説の連載を7月より新たに開始、その第一弾は「GENGO レコーズへようこそ~石原まこちん音楽の履歴書」。石原氏は『THE 3名様』

で大ブレイク、深夜のファミレスを舞台にした同作品は、実写版の DVD としても人気シリーズとなっている人気漫画家です。

1月からは『スカイ・クロラ』をはじめ著書発行部数累計 900 万部を超えるベストセラー作家・森博嗣氏の、音楽をテーマにしたエッセイの連載がスタート。さらには『パラサイト・イヴ』が社会現象となった小説家・瀬名秀明氏の書き下ろし小説の連載も予定しており、連載後の書籍化も計画するなど、話題性を高め、有料会員増大を図っていきます。

◇ポッドキャストでは 20 番組前後を常時配信中。「i-tunes」で 1 位となり話題となった「ききみみ名作文庫」は、有名文学作品を名優が朗読するポッドキャスト番組で、『宮沢賢治全集～8 巻セット』（「注文の多い料理店/朗読：古谷一行」「猫の事務所/朗読：三上博史」等を収録）と『ききみみ名作文庫 BOX～10 巻セット』（夏目漱石「夢十夜/朗読：林隆三」、林芙美子「蛙/朗読：栗原小巻」等を収録）を 11 月に CD 化します。

今後もこのポッドキャストに注力し、カルチャー、教養、ビジネスのジャンルを中心とする、一話 3 分間で様々なことが学べるような新たな番組群を投入し、言わばネット上の「総合ポッドキャスト書店」としての新サイトを誕生させることも計画中です。

今後も更にクロスメディア展開を一層強化して参りますが、TOKYO FM のこの取り組みが、多メディア時代におけるラジオ局の新しい運営スタイルとなり、ラジオ業界全体の活性化にも繋がっていくものと確信しております。

議題2：番組試聴

【番組名】「バイブル」

【放送日時】

2007年10月18日（木）16:00～16:25 放送分

【番組概要】

『ENTERMAX』（月-木 14:00-17:00）内に新設した報道番組「バイブル」は、世の中でいま話題となっているニュースの主人公である“人物”に焦点を当て、パーソナリティの坂上みきと報道情報センターの局員が、街の声、リスナーの声も取り入れながら、ニュースをめぐる様々な側面をイマジネーションしていこうという、ラジオらしい報道番組を目指すものです。

今回は「HIV・エイズ」の問題を取り上げた10月18日（木）放送分をご試聴頂きます。当該週は、現代人の身体に纏わる3つの疾患をとりあげ、その一般にはあまり知られていないが考えておく必要のある側面を特集しました（月：HIV・エイズ①、火：ムコ多糖症、水：大腸がん、木：HIV・エイズ②）。

中でも、これまでも継続的に取り上げてきた「HIV・エイズ」には、現在も根強い差別・偏見が存在しています。月曜に放送した「①HIVの基礎知識・現状」を踏まえ、今回ご試聴頂く木曜日の放送では実際にHIVに感染した方の話を織り交ぜながら、「②HIV患者を取り巻く社会環境」にスポットを当て番組を構成しました。

もし会社の同僚が感染したら、友達が、家族が感染したら…。決して「他人事」ではないこととして「HIV・エイズ」を捉える、そんな意識のきっかけとなるような番組を目指しました。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○落ち着いた聴けるいい番組だと思った。この1回だけでもききごたえのある番組で、啓蒙番組としてもよくできたものであった。坂上さんは読み原稿が上手で聴きやすい。

一方で、街頭インタビューを聴いていて、日本語の乱れが気になった。ぜひ、日本語の乱れについても、この番組で取り上げてみてほしいと思う。

今回のテーマでは、サンスターで企業としての取り組みをしている女性の言葉、「社会がわかっていない状況では、会社にわかってもらうことは難しい」という言葉が印象的であった。ただ「偏見はいけない」というのではなく、そういう見方をしている人を取り上げたことに、意味があったと思う。

○テーマ設定がとてもよい。テレビでも、報道特集などはあるが、普通のニュースではストレートニュースに追われて、なかなかこのような番組がない。ぜひ続けて行って欲しいと思った。今回のテーマに関しては、我々はとにかく知識が欠けているので、月曜日の放送で取り上げたようではあるが、やはり基本的な知識についてもきちんと伝えていくことが必要だろう。また、「偏見がだめだ」というだけでなく、「偏見」が生み出される土台はなんなのだろうか、というところまで突き詰めていくと、より理解が深まったかと思う。

○私も性教育についての研修会に取り組んだ際、感染者の方にお会いしたが、3人とも亡くなってしまった。そのうち1人は高校生だった。子供のときの輸血で感染してしまったという。大変鎮痛な思いをした。その時の思いを、思い出した。非常に大事な問題だと思う。

○今回の番組に登場したのは、若い方で且つ冷静にきちんと語れる方で、人選もよかったと思う。特にサンスターの取り組みが非常に興味深かった。大抵、薬害エイズの感染者には理解があるが、性行為による感染は自己責任と思われるところがある。会社に対して個人の力でこのような取り組みを実現させたのであれば、個人の力の可能性を感じるとてもよい事例だと思う。ただ、夕方の忙しい時間に、一般のリスナーにじっくり聴いてもらえるかどうかということを感じた。また、エイズについて知るためには、どこにいけ

ばいいのか、何をみればいいのか、何を知ればいいのか、などを教えてくれるとよりよかったと思う。

○偏見がいけないということは繰り返されたけれども、ではエイズについて何をわかっていなければならないのか、ということが言われずに終わってしまったのが残念だった。偏見にはいろいろな偏見があるけれども、正しい知識を得れば正せるものと、わかってはいてもぬぐいされない、こころに巣食っているものがあるということも、改めて考えさせられた。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送：番組「Heart Sharing」

11月25日（日） 6：00～8：30放送

② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は12月4日（火）に開催することを決めた。

以上